# くしまっ子

## 兄妹ファイター！

### 兄妹そろって レスリングの高みを目指す

高校生との練習でスキルを磨きます

福島高校レスリング道場で、高校生と一緒に練習をする串間中学校レスリング同好会。所属しているのは、兄妹である水谷大翔くん、こころさん。同好会は今年設立されたため、現在2人のみの部員ですが、切磋琢磨しながら日々練習を行っています。

大翔くんは、父親が市内のジュニアレスリングチーム「くしまグリーンホース」監督の鈴木博也さんと友人であり、誘われてレスリングを始め、こころさんは試合に出る大翔くんの背中を見て、追うように始めます。

練習は和やかな雰囲気でしていますが、集中するときは真剣に取り組み、切り替えを大事にしています。大翔くんは攻守バランスよく立ち回りながらより多くポイントを取れるように、こころさんは攻めを積極的に行いつつ相手にポイントを取られないよう、常に姿勢を低くできるように意識しながら練習しています。

「個人競技なので自分の努力次第で試合で発揮できます。前回負けた相手に勝てたときは嬉しいですね」とレスリングの魅力を2人は話します。

11月に東京都で開催される第10回全国中学選抜レスリング選手権大会に2人そろって出場します。「正確に技を決めて、昨年のベスト16を超えて、5位以内に入りたい」（大翔くん）。「場の空気に飲まれないように、自信を持って1つでも多く勝ちたい」（こころさん）。兄妹そろっての挑戦は続きます。

**31. 水谷（みずたに） 大翔（ひろと）くん（左）**
**水谷（みずたに） こころさん（右）**

2人とも小学生からレスリングを始め、数々の大会で上位の成績を残す。得意技は、大翔くんはローシングル、がぶり返し。こころさん牛殺し。

## 地域おこし協力隊 活動日記 vol.31

### 身の丈に合うモノを

福島（ふくしま） 綾乃（あやの）さん

「カメラが好きなら、僕の使ってないカメラあげるよ♪」と、ひょんなきっかけで一眼レフカメラを譲り受けました。

この手元にやってきたNikon D300というカメラ。約10年前に販売された機材でNikonのコアなファンの間ではいまだに使用されている方もいます。デジタル一眼レフカメラって、個人的に「ここ10年ほどで改良されたのは、軽量化やタッチパネル、Bluetoothなどの利便性や互換性」だと感じているところ。

このカメラにも時代を感じたのはメモリーを確認したときでした。マイクロSDカードではなく、フラッシュメモリーカードが入っていたのです。マニアにはたまらないのでしょうね。そして現在のフルサイズカメラよりもずっしりと重いボディは安定感が違います。面構えも素敵で頼もしい。なんともダンディーなカメラなのです。

しかし「そもそも、私がこのダンディーを使いこなせるものなのだろうか。第一ダンディーに割いていられるお金と時間がない。古いからこそ手間暇かけて楽しめる機材なのに、私の今のステータスでは、ダンディーに失礼だ」と、私の身の丈に合っていない気がしてきてしまったのです。このまま私のもとで眠らせるのはもっとよくない。しばらく眠っていたダンディーを少々メンテナンスしてお返しすることにしました。きれいにして返せば元の持ち主の気持ちも変わるかもしれないし、新たに誰かの手に渡っても大丈夫にしておきたかったのです。ちゃんとダンディーとお似合いな持ち主が出てくるといいのだけど。

ちなみに私が使用しているのはCanon EOS9000Dというプレミアムエントリーモデルで、フルサイズカメラではありません。フルサイズはフルサイズで、まだ身の丈に合っておりませんので。

串間のあんな人こんな人
# People
ピープル

串間で活躍する人を紹介します
## きらめき図鑑
kirameki

## 好きな事を一生懸命に

### 周りの方々に支えられて

9月に市総合運動公園で行われた第37回宮日旗争奪学童野球大会串間地区予選で、軟式学童野球チームの「北方野球スポーツ」が初優勝を果たし、県大会初出場を決めました。監督を務めるのは深江直樹さん。

深江さんは、野球をしていた友人の影響で小学1年生から野球を始めます。学生時代はひたすら野球に打ち込む中、高校卒業後の進路選択で、父のキュウリ農家を継ぐか、大学に進学し野球を続けるかで頭を悩ませますが、「父の後を継ぎたい」という気持ちが強く、キュウリ農家の道に進みます。卒業後は1年間キュウリの種を作る会社で勉強した後、串間に戻り父のハウスを任され本格的にキュウリ作りを開始。その後結婚し双子の息子を授かり、子どもを育てながら奥さんと2人で、日々キュウリ作りに励んでいます。

深江さんの影響で、息子たちも野球を始め、現在、北方野球スポーツに所属しています。同スポーツの前監督が退任するにあたって、深江さんは、「自身の野球経験を生かして子どもたちに教えたい」と思い、家族の後押しもあって今年の3月から監督として指導にあたっています。

キュウリ作りと週6日の野球の指導を行い、忙しい日々を送っている深江さん。「時間がないのは大変ですが、野球が大好きなのでやりがいを持ってやっています。家族の支えがあるからこそ続けられていますね」。また、「キュウリ作りでも、昨年、おととしと2年連続台風の浸水被害に遭った際には、友人などさまざまな方に助けてもらい乗り越えられました」と周りの方々への感謝の気持ちを話します。

やりがいについて聞くと、「練習や試合で子どもたちが一生懸命頑張っている姿を見ると嬉しい」。また、キュウリ農家としては「作ったキュウリを皆さんに食べてもらえていることですね」と笑みをこぼします。

監督として指導の仕方など日々勉強している深江さんですが、「結果も大事だが、礼儀や忍耐力など人として成長してもらえるような指導をしていきたい」。また、「キュウリ作りでは、反収（たんしゅう）約10アールあたりの収穫量をさらに増やしていき、市内で一番の収穫を目指したい」とさらなる目標を話します。

今後も異なる2つの仕事を両立させながら、熱い思いで活動を続けていきます。

**深江（ふかえ） 直樹（なおき）さん**
**（北方地区・羽ヶ瀬）**

キュウリ農家であり、北方野球スポーツの監督も務め子どもたちの指導にあたる。趣味は野球。

販売しているキュウリ

宮日学童野球串間地区予選で優勝した際の集合写真